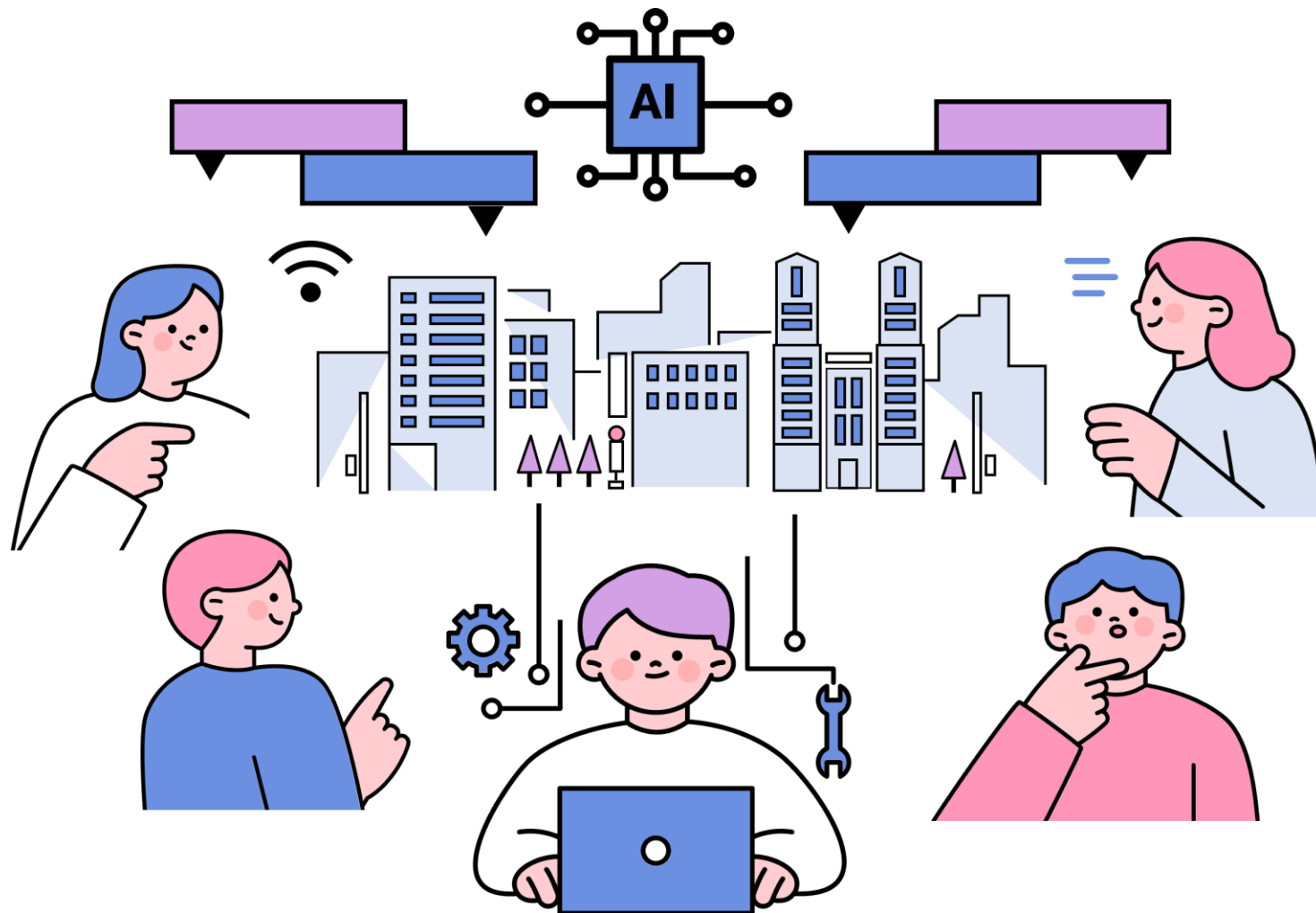


文章生成AI 利活用 ガイドライン

Version 2.0

令和6年（2024年）4月
東京都デジタルサービス局



はじめに

このガイドラインは、東京都で初めてとなる文章生成AIの利活用ガイドラインです。

ChatGPTをはじめとする文章生成AIは、都職員の業務のあり方を大きく変革する可能性を秘めている一方、様々なリスクも指摘されています。このため、業務での活用にあたり期待する効果を得るためには、その特性をよく理解し、正しく利用することが重要です。

東京都では、デジタルサービス局に検討プロジェクトチームを設置して、文章生成AIの利活用について議論を重ね、令和5年8月、検討の成果をガイドライン（Version 1.0）としてまとめ、文章生成AIの全庁利用を開始しました。

その後、10月に利用状況についてアンケートを行ったところ、活用事例やプロンプト例を求める声が多かった

ことから、各局でアイデアソンを行うとともに、令和6年1月には「都職員のアイデアが詰まった文章生成AI活用事例集」を作成・公表しました。

また、利便性とセキュリティに優れた様々な新しい技術・サービスが登場したことから、令和6年4月に生成AIの利用環境をバージョンアップすることにし、本ガイドラインもVersion2.0としてアップグレードしました。

業務に活用する際には、このガイドラインをしっかりと読んでいただきますようお願いします。

そして、文章生成AIという新しい技術を正しく使いこなし、行政サービスの質を高め、都政のQOS（Quality of Service）向上へとつなげていきましょう。

目次

はじめに P. 2

1章 文章生成AIについて

- 1 文章生成AIの特徴 P. 5
- 2 文章生成AIの活用可能性とリスク P. 6
- 3 都の取組の方向性 P. 7

2章 利用環境

- 1 都における利用環境 P. 9
- 2 利用環境のイメージと留意点 P.10

3章 利用上のルール

- 1 利用にあたっての約束事 P.12
- 2 職員が守るべきルール P.13

4章 効果的な活用方法

- 1 文章生成AIの効果的な活用に向けて P.20
- 2 有効な活用分野 P.21
- 3 有効なプロンプトの方法 P.27

5章 今後の展望

- 1 発展を続ける生成AI P.39
- 2 生成AIをめぐる動向 P.40
- 3 今後の都の取組 P.41

SPECIAL THANKS ! P.42

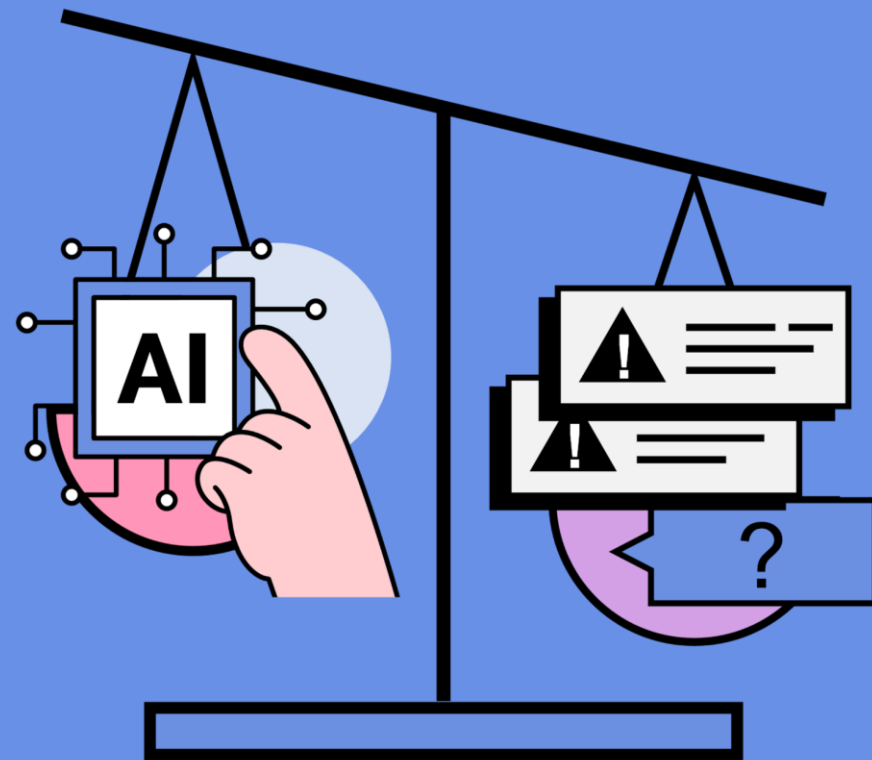
付録

- ・職員アイデアソン
- ・利用者アンケート
- ・4章で使用したプロンプトと回答の全文

1 章 文章生成AIについて

1章では、文章生成AIの概要と、それを業務に活用するために知ってほしいことを紹介します。ぜひ文章生成AIを利用する前に読んでください。

はじめに、文章生成AIの特徴や、その活用可能性と伴うリスクについて、また都の取組の方向性について紹介します。



1 文章生成AIの特徴

AIに対してプロンプト[※]を与え、文章を生成することができる人工知能のひとつで、**人間の業務・作業をサポートするツール**として活用が期待されています。

これまではAIがデータを基礎とした結果を予測し、人間が具体的な対応策を生み出してきました。

一方、文章生成AIは**プロンプトに対するテキストを対話形式で応答**する点が、これまでのAIとは異なることに注目が集まっています。

※ 指示、命令文のこと



2 文章生成AIの活用可能性とリスク

生成AIの登場、そしてその性能が格段に向上する中、社会の様々な分野において活用が広がる可能性があります。

本ガイドラインで取り上げる文章生成AIについても、これを適切かつ効果的に活用することで、**これまでのような生産性の向上や、社会課題の解決につながる可能性**を秘めており、AI活用に向けた検討や取組を進めていく必要があります。

一方で、文章生成AIには、**情報漏えいや回答の不正確性、著作権侵害など、様々な問題が指摘**されており、文章生成AIが生成した**回答の根拠や裏付けを必ず確認することが重要**です。

行政分野での活用にあたっては、こうしたリスクへの対応が必要です。



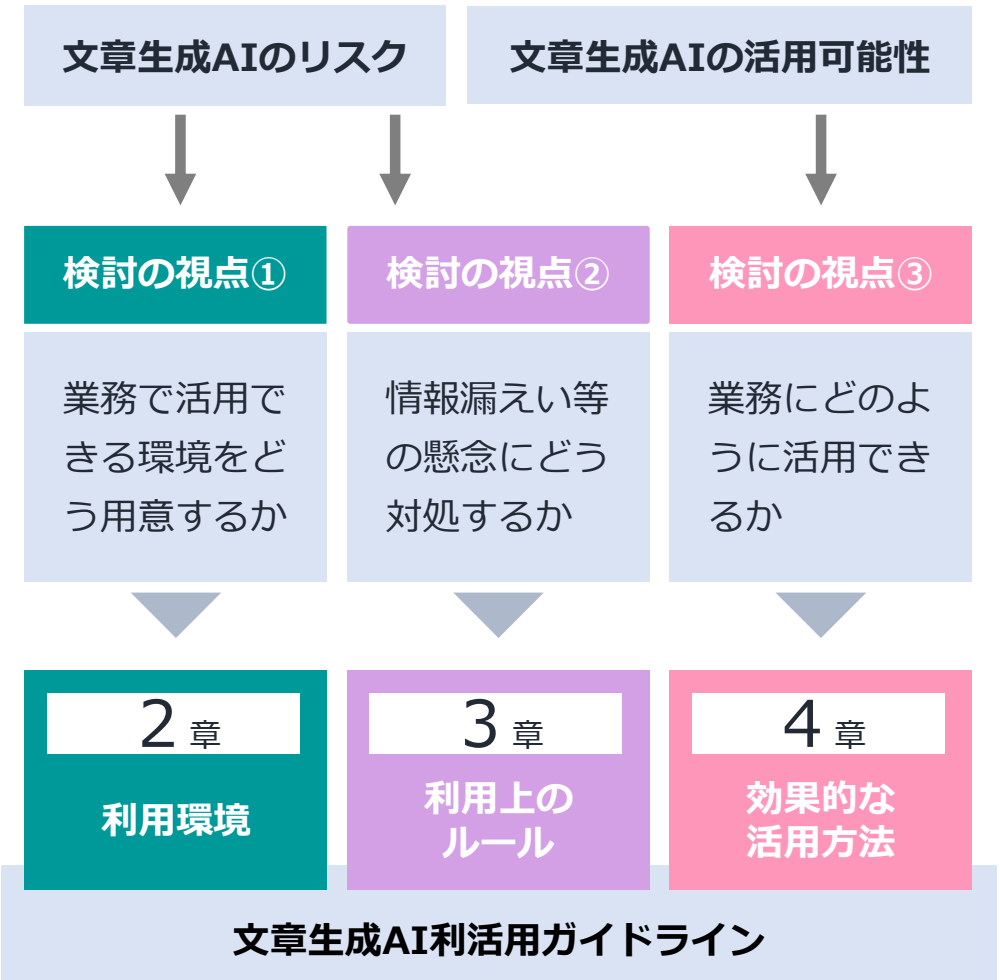
- 1 章
文章生成AIについて
- 2 章
利用環境
- 3 章
利用上のルール
- 4 章
効果的な活用方法
- 5 章
今後の展望

3 都の取組の方向性

都はこれまで、AIを様々な業務で活用し、業務の効率化等を推進してきました。

そして、令和5年4月には、文章生成AIの活用に関して、デジタルサービス局にPTを立ち上げ、**文章生成AIのプラス面とマイナス面を見極めながら検討を重ねてきました。**

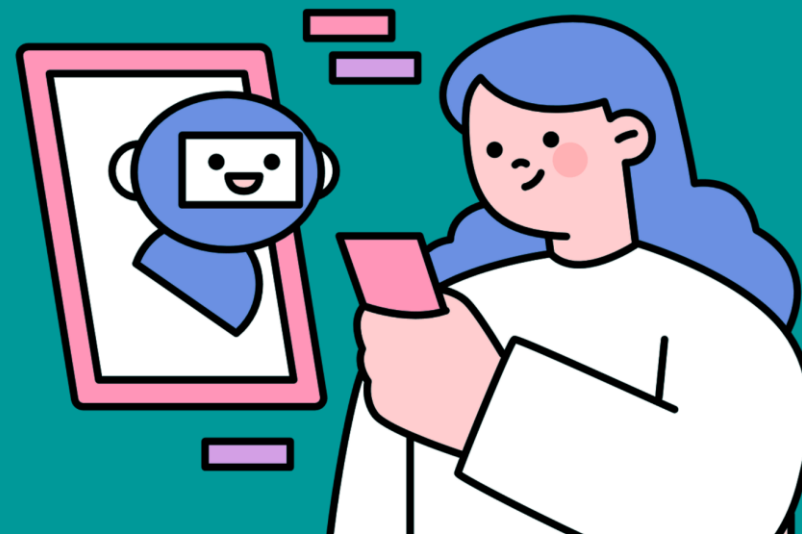
今後、右の3つの視点を踏まえて取りまとめた**このガイドライン**をもとに、**様々な行政分野での活用を進めていきます。**



2章 利用環境

2章では、デジタルサービス局が準備した、利用環境について紹介します。

プロンプトを入力し、出力された回答が表示されるまでの関係性を解説します。



1 都における利用環境

インターネット上の公開された環境で文章生成AIを利用すると、入力内容が学習データとして保存されるなど、情報漏えいにつながるリスクがあります。

東京都では職員が文章生成AIを業務で活用するための環境として、令和6年4月から「Microsoft Copilot^{※1}」の利用を開始します。「Microsoft Copilot」を利用できない一部の職員に対しては、「Azure OpenAI Service^{※2}」を使った利用環境を引き続き提供します。いずれのサービスにおいても、以下の点を確認し、データの漏えいリスクを可能な限り低減しています。

- **入力データが学習目的で利用されない**
- **入力データの保存をサーバー側で行わない**

※1 商用データ保護を備えたCopilot（旧称：Bing Chat Enterprise）。GPT-4の学習データ+Bing検索結果。

※2 ChatGPTをMicrosoft Azureの環境で使用できるサービス。職員の入力データがサーバー側に保存されないようにするためのopt out機能を利用



2 利用環境のイメージと留意点

Microsoft Copilotについては、画面に緑色の「保護済み」のマークが表示されていることを確認してから、利用してください。

「Azure OpenAI Service」を利用した環境においては、入力したプロンプトは「Azure OpenAI Service」に送信され、受信した回答が表示されます。

いずれの環境においても、プロンプトを連続して入力し深掘りすることで、回答内容の向上が期待できます。

なお、生成AIの利用にあたっては、**利用開始前の研修受講が必要です。**

※1 API(Application Programming Interface)はプログラム同士が情報をやり取りするための窓口

※2 令和6年4月現在、Azure OpenAI ServiceのChatGPT-4 を利用

Microsoft Copilotの画面イメージ



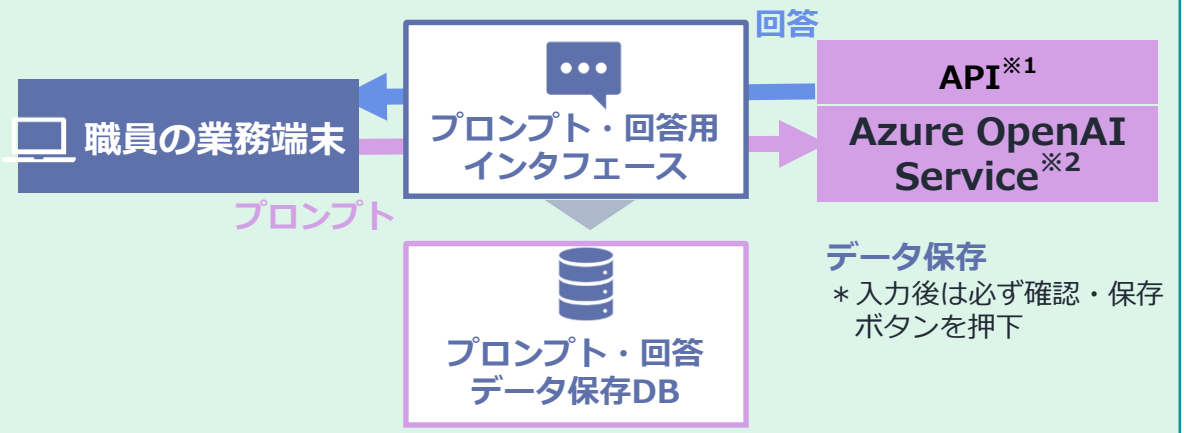
保護済み



データ保護

* 「保護済み」マークが表示されていることを確認し
利用してください。

Azure OpenAI Serviceの構成イメージ



3章 利用上のルール

3章では、利用上のルールについて説明します。

文章生成AIの利用に際しては、この章を必ず参照し、ルールを守って安全に使っていただくようお願いします。



1 利用にあたっての約束事

文章生成AIの利用にあたっては、安全な利用環境の整備に加え、職員の皆さん自身がリスクを理解し、ルールを守って利用することが重要です。

まず、次の点を必ず遵守するようにしてください。



安全性が確保された庁内の共通基盤で文章生成AIを利用すること（2章参照）

職員の皆さんは庁内の共通基盤での**生成AIの利用について、研修を受講してください。**

東京都サイバーセキュリティポリシー上、**許可されていない生成AIを業務で利用すること、私物端末上で生成AIを用いて業務を行うことは禁止**されており、違反すると懲戒処分の対象となる場合があります。

令和6年4月から利用を開始したMicrosoft Copilotには、画像生成の機能があります。生成された画像は、著作権侵害のリスクがあり、使用する場合は、権利侵害がないこと、内容が妥当であることを慎重に確認する必要があります。特に、生成物を配信・公開等する場合には、弁理士等の専門家への確認や画像検索機能での確認など、法や規程に違反しないよう十分に注意してください。

参考：Microsoft社「Copilot Copyright Commitment」、文化庁「AIと著作権」

2 職員が守るべきルール

庁内の共通基盤で文章生成AIを利用する際のルールは以下 4 点です。

ルール 1

個人情報等、機密性の高い情報は入力しないこと

ルール 2

著作権保護の観点から、以下の点を十分注意し、確認

- ・既存の著作物に類似する文章の生成につながるようなプロンプトを入力しないこと
- ・回答を配信・公開等する場合、既存の著作物等に類似しないか入念に確認

ルール 3

文章生成AIが生成した回答の根拠や裏付けを必ず自ら確認

ルール 4

文章生成AIの回答を対外的にそのまま使用する場合は、その旨明記

※ 本ガイドラインではルールをわかりやすく 4 点にまとめていますが、生成AIの取扱いについては一般社団法人日本ディープラーニング協会の生成AIの利用ガイドラインも参考にしてください。

ルール
1**個人情報等、機密性の高い情報は入力しないこと**

文章生成AIは外部サービスに該当し、セキュリティ対策はサービス提供者に依存することから、機密情報や未公開情報を入力すると、万が一の場合、情報漏えいにつながるリスクが残ります。

*機密性Aは入力不可（安全性が確保された利用環境（2章参照）であれば、機密性Bまでの情報を入力可能）

機密性	セキュリティポリシー上の分類	情報資産の例
入力不可	A 秘密文書に相当する、高い機密性を要する 情報資産	個人情報、契約関係情報、訴訟・審査請求等に 関する情報 等
	B 秘密文書に相当しないが、直ちに一般に公表する ことを前提としていない情報資産	内部通知、事案決定手続きを経ていない企画資料、 経常業務の事務手順や実績 等
	C 機密性A又は機密性B以外の情報資産	東京都のホームページ等で公開済みの行政情報 等

（出典）東京都サイバーセキュリティポリシー

ルール
2**著作権^{※1}保護の観点から、以下の点を十分注意し、確認**

- ・既存の著作物に類似する文章の生成^{※2}につながるようなプロンプトを入力しないこと
- ・回答を配信・公開等する場合、既存の著作物等に類似しないか入念に確認

単に他人の既存著作物、作家名、作品の名称を入力するだけの行為は、必ずしも直ちに著作権侵害に該当するとは限りません。ただし、生成されたデータが、プロンプトに入力したデータや既存の著作物と同一・類似している場合は、当該生成物の利用が当該著作物の著作権侵害になる可能性もあります。

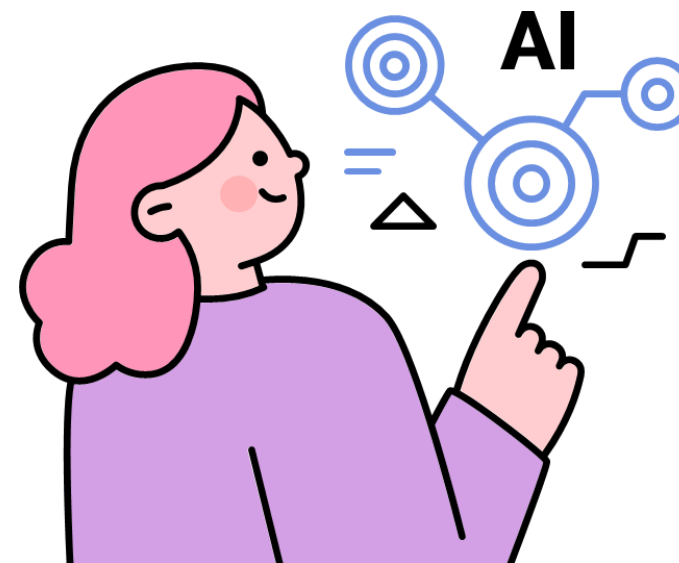
特に**生成物を配信・公開等する場合には、生成物が既存著作物に類似しないかの調査**を行うようにしてください。

令和6年4月から利用を開始するMicrosoft Copilotには、画像生成の機能があります。**生成された画像は、著作権侵害のリスクがあり、使用する場合は権利侵害がないこと等を慎重に確認する必要があります。**弁理士等の専門家への確認や画像検索機能での確認など、法や規程に違反しないよう十分に注意してください。

※1 著作権、特許権、個別の契約上の権利関係を含む

※2 「作家〇〇の作品△△に似せて文章を生成してください」とプロンプトに入力する場合や、著作物をそのままプロンプトに入力し、当該著作物に類似した文章を生成させる場合 等

参考 AIと著作権に関する考え方については、文化庁「AIと著作権」等を参考にしてください。



ルール
3

文章生成AIが生成した回答の根拠や裏付けを必ず自ら確認

文章生成AIが生成した回答は表現・言い回しが自然であるため、正しいと感じてしまいます。しかし、**最新の情報を反映していなかったり、偏った価値観、アンコンシャスバイアス[※]等が反映されてしまうこともあるなど、必ずしもその内容が「正確」とは限りません。**

なお、Microsoft Copilotでは、回答を生成するにあたり参考にしたURLが示されます。参考URLを手がかりに確認することもできますが、示されたURL内の内容が適切かどうかについては保証できません。

また、**画像生成の機能を使い生成された画像についても、文章同様に内容の妥当性を十分に検討してください。**

※ 自分自身は気づいていないものの見方や捉え方のゆがみや偏り

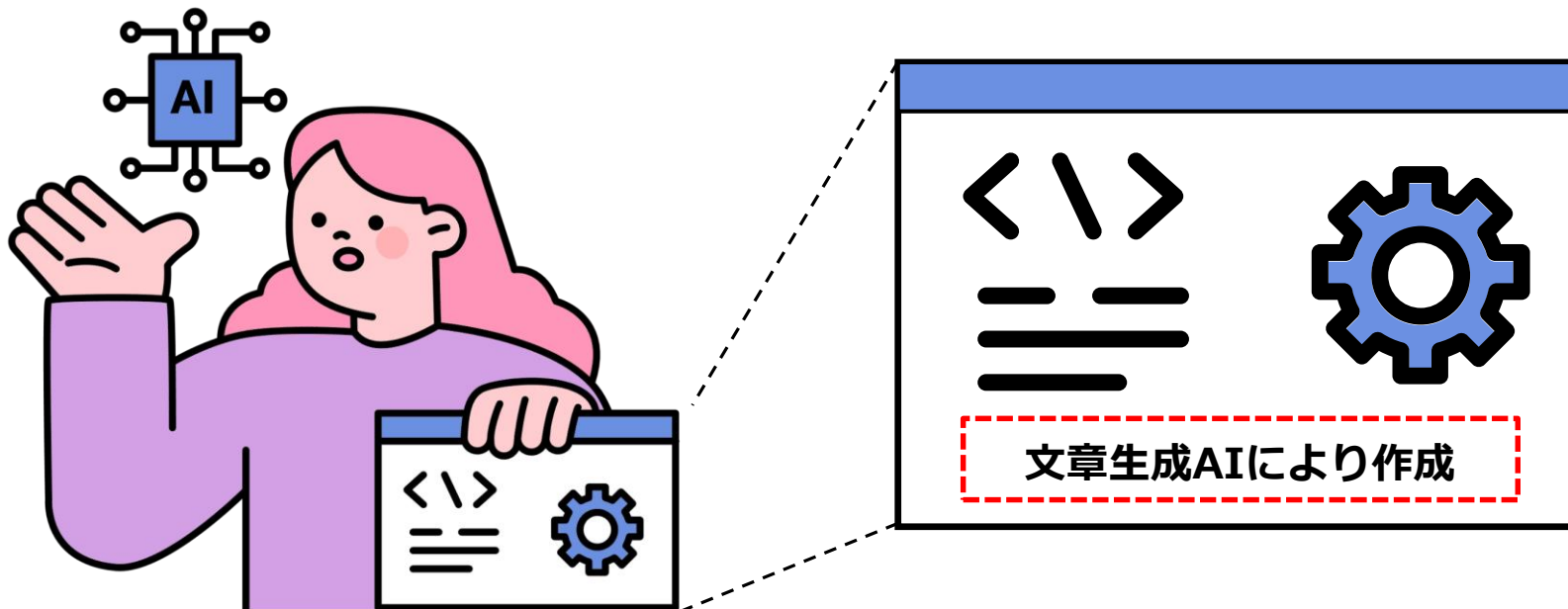


ルール
4

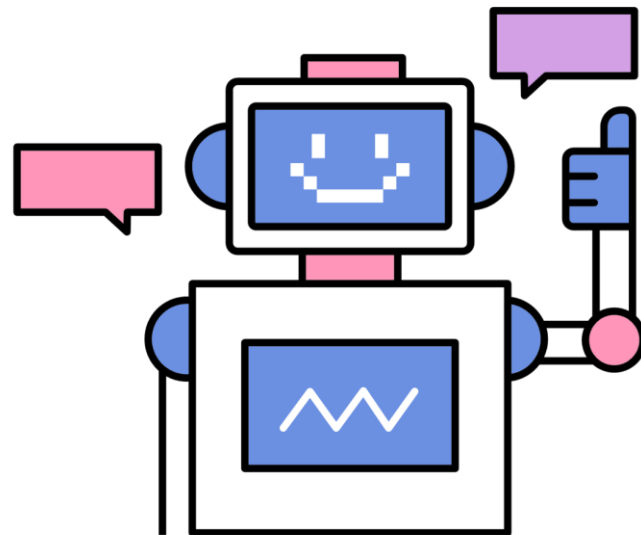
文章生成AIの回答を対外的にそのまま使用する場合は、その旨明記

内容を確認した後、翻訳文や要約文等、文章生成AIの回答を対外的にそのまま使用する場合は、「文章生成AIにより作成」と記載することで、生成された文章がAIによるものか人間によるものかを読み手に伝えることができます。

なお、画像生成の機能を使い生成された画像についても同様です。



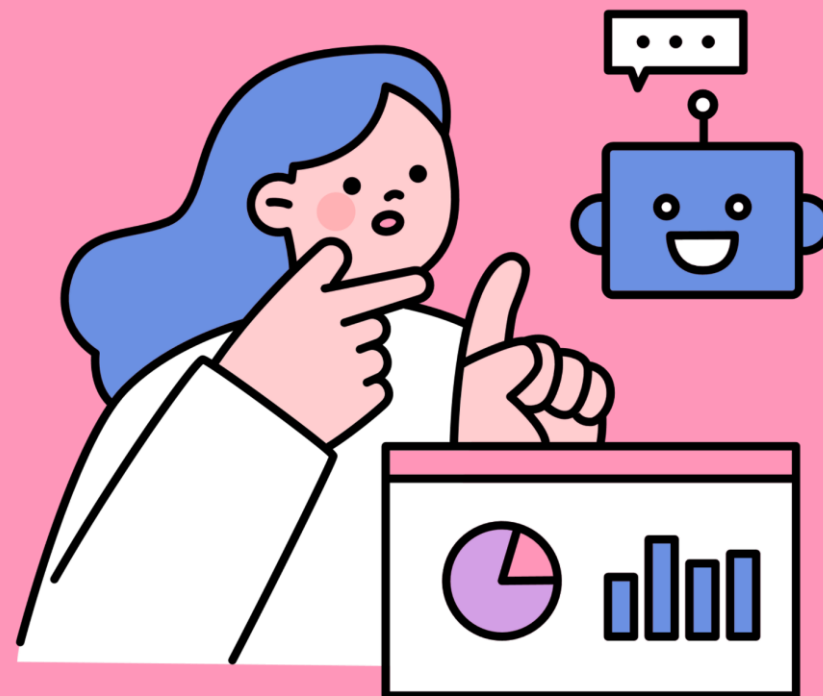
東京都サイバーセキュリティポリシーや
本利用ルールを遵守し、
文章生成AIを安全に活用しましょう！



4章 効果的な活用方法

4章では、文章生成AIに関する効果的な活用方法を紹介します。実際どんな場面で活用できるのか、活用事例や使い方のコツを紹介します。

まずは文章生成AIの業務利用での可能性を感じてみてください。



1 文章生成AIの効果的な活用に向けて

東京都における**効果的な活用方法を模索するため**、まずはデジタルサービス局において**アイデアソンを実施**し、職員の自由な発想のもと様々なアイデアを創出し、その実践に取り組みました。

検討PTで103個のアイデアの分類を行った結果、行政分野において、役に立つと考えられるアイデアには、**有効な分野とプロンプトの手法があることが分かりました。**

次頁以降、有効な活用分野とプロンプトの手法について解説していきます。

アイデアソン (1回目)

4月下旬

文章生成AI活用に係るアイデア出しを実施し、約200個の幅広いアイデアを創出

デジタル サービス局で 先行利用開始

6月中旬～

デジタルサービス局職員（約300人）が先行実施環境により、実務面での活用を開始

アイデアソン (2回目)


6月下旬

1回目のアイデアソンも踏まえ、デジタルサービス局職員から実務に根差した約200個のアイデアを収集

グループワークにおいて活用可能性の高い103個の事例を抽出

2 有効な活用分野

検討PTにおいて、103個のアイデアについて、行政での利用に「向いているもの」「不向きなもの」を整理し、活用分野ごとに分類しました。

 向いている	①文書作成の補助 <ul style="list-style-type: none"> ■ 要約、言い換え、翻訳 ■ 文案作成
	②アイデア出し <ul style="list-style-type: none"> ■ 考えの整理（壁打ち） ■ 事業企画におけるペルソナ※分析 ■ デジタルツールの活用案提示 等
	③ローコード等の生成 <ul style="list-style-type: none"> ■ マクロ、VBA等の生成 <p>※ データを基に作った架空のユーザーが満足するように、サービス等を設計するマーケティング方法</p>
不向き <ul style="list-style-type: none"> • 検索（最新情報、正確性が必要な情報 等） • 数学的な計算 等 	

文章作成 **19**件

アイデア出し
61件

マクロ・VBA **10**件

その他（検索）
13件

利用に向いているもの

①文書作成の補助

<p>プロンプト例</p>	<p>ChatGPTを子供でもわかるように要約して下さい。</p>
<p>回答</p>	<p>ChatGPTとは、人と話すことができるコンピューターのプログラムです。人の言葉を分析して、適切な返事を作ります。ChatGPTは、インターネット上のたくさんの会話を学習して、自分で新しい言葉を考えることができます。ChatGPTは、面白い話題やクイズなど、いろいろなことについて話すことができますが、まだ完璧ではありません。時々、間違っただけや変なことを言うことがあります。ChatGPTは、人間の友達の代わりにすることはできませんが、楽しく会話することはできます。</p>

利用に向いているもの

②アイデア出し

<p>プロンプト例</p>	<p>高齢者のデジタル活用に向けた企画案を箇条書きで作成をお願いします。</p>
<p>回答</p>	<p>高齢者のデジタル活用に向けた企画案を箇条書きで作成しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 高齢者向けのデジタル教育プログラムを開発する - スマートフォンやタブレットなどの基本操作やアプリの使い方を分かりやすく教える - オンラインでのコミュニケーションや情報収集の方法を紹介する - デジタル機器の購入やサポートの相談窓口を設ける - 高齢者がデジタル機器を活用できる場を提供する <ul style="list-style-type: none"> - 地域の公共施設や図書館などに無料で貸し出せるデジタル機器を設置する - デジタル機器を使って楽しめるイベントやワークショップを開催する - 高齢者同士や若者との交流を促すオンラインコミュニティを作る - 高齢者のデジタル活用に関する調査や啓発活動を行う <ul style="list-style-type: none"> - 高齢者のデジタル機器の利用状況やニーズを定期的に調査する - デジタル機器の利用がもたらすメリットや注意点を広報する - デジタル機器の利用に関する質問や相談に応答するホットラインを運営する

利用に向いているもの

③ローコード等の生成

プロンプト例	Microsoft Excelでピボットテーブルを作成するコードを教えてください。
回答	<pre>vba ' ピボットテーブルを作成するためのデータ範囲を指定 Dim dataRange As Range Set dataRange = Worksheets("Sheet1").Range("A1:D10") ' ピボットテーブルを作成するための新しいワークシートを追加 Dim pivotSheet As Worksheet Set pivotSheet = Worksheets.Add ' ピボットテーブルを作成するためのキャッシュを作成 Dim pivotCache As PivotCache Set pivotCache = ActiveWorkbook.PivotCaches.Create(SourceType:=xlDatabase, SourceData:=dataRange) ' ピボットテーブルを作成し、A1セルに配置 Dim pivotTable As PivotTable Set pivotTable = pivotCache.CreatePivotTable(TableDestination:=pivotSheet.Range("A1")) (以下略)</pre>

利用に不向きなもの

・ 検索

プロンプト例	令和 5 年 7 月現在の日本の現職の総理大臣を教えてください。
回答	令和 5 年 7 月現在の日本の現職の総理大臣は菅義偉（すが・よしひで）氏です。菅義偉氏は、2020 年 9 月に安倍晋三氏の後任として総理大臣に就任しました。彼は自由民主党の党首でもあり、日本の政治を指導しています。菅総理は、国内外の様々な課題に取り組み、国民の福祉や経済の発展を促進するために努力しています。

※ Azure OpenAI Service の ChatGPT- 3.5 Turbo を利用して作成しました。

プロンプト例	令和 6 年 3 月現在の日本の現職の総理大臣を教えてください。
回答	現在の日本の総理大臣は、岸田文雄（きしだ ふみお）氏です。彼は第101代の総理大臣であり、第2次岸田第2次改造内閣に所属しています。岸田文雄氏は、日本政府の最高指導者として、さまざまな重要な政策や課題に取り組んでいます。彼の指導の下で、日本の政治と社会に影響を与える出来事が進行中です。詳細な情報は、首相官邸ホームページで確認できます。

※ Microsoft Copilot(GPT-4の学習データ+Bing検索結果)で作成しました。

利用に不向きなもの

・ 数学的な計算

<p>プロンプト例</p>	<p>120円、94円、84円、63円、1円の切手を使って、切手総枚数が最小になるように、406円以上の切手を組み合わせてください。</p>
<p>回答</p>	<p>406円以上の切手を作るには、120円の切手を3枚と46円の切手を1枚使うと、切手総枚数が最小の4枚になります。しかし、46円切手は存在しません。同様に47円切手もありません。したがって、406円と407円の切手は作れません。</p> <p>408円以上の切手を作るには、120円の切手を3枚と48円の切手を1枚使うと、切手総枚数が最小の4枚になります。</p> <p>409円以上の切手を作るには、120円の切手を3枚と49円の切手を1枚使うと、切手総枚数が最小の4枚になります。</p> <p>410円以上の切手を作るには、120円の切手を3枚と50円の切手を1枚使うと、切手総枚数が最小の4枚になります。</p>

**GPT-4でも存在しない48円切手の回答がでた。
正しい正解（一つ）は、120円切手4枚で480円となる。
答えが一つに定まらないような依頼をすると間違い。**

3 有効なプロンプトの手法

検討PTにおいて、103個のアイデアについて分析したところ、同じようなことをプロンプトに入力した場合でも回答結果が異なることがあり、**質問の前提や内容を具体化することが重要**であることが分かりました。

その理由として、文章生成AIが過去の膨大なデータから、次に続く確率の高い言語をパターン出力していることが挙げられます。

このため、質の高い回答を導くために、先に述べた「具体性」などが重要とされています。

このように入力方法を工夫することを一般的に「**プロンプトエンジニアリング**」と呼んでいます。

パターン出カイメージ



プロンプトのコツ

「プロンプト」とは、[文章生成AIから応答を引き出すための指示・命令文](#)です。

回答は、プロンプトを基にしか出力されないため、条件を提示せず、漠然と入力するだけでは、求めている回答は得られません。最初に必要な情報を引き出し、プロンプトの入力を重ねることで、質の高い回答に近づけることができます。なお、活用事例ごとのプロンプトについては、令和6年1月に発行した「[都職員のアイデアが詰まった文章生成AI活用事例集](#)」も参考にしてください。

Step 1

必要な情報を引き出し整理する

- ① **立場をはっきり**
 - 行政分野や立場、文章生成AIに与える役割 等
- ② **目的・背景を具体的に指定**
 - 前提条件、課題を整理
- ③ **出力形式を指定**
 - 文字数、英語、箇条書き 等

Step 2

視点を加えて高度な回答を導く

- ④ **プロンプトを重ねて回答をブラッシュアップ**
 - 追加質問や、Step 1 でうまく回答を得られなかった①～③の条件を追加

掲載事例一覧

本頁から、**行政の事例に即して具体の実践例**を挙げていきます。

基本編	事例 ①	文書作成 (挨拶文)	Step 1 事業責任者として、説明 会冒頭での 挨拶文 を作成	Step 2 挨拶文を 資料掲載用の原 稿 に体裁を変更
	事例 ②	文書作成 (要約)	Step 1 HPから 局事業の内容を 要約	Step 2 子供にもわかるように 言 い換え
	事例 ③	アイデア出し (企画提案)	Step 1 担当として、庁内イベン トの 企画内容を提案	Step 2 追加提案
応用編	事例 ④	アイデア出し (企画提案)	応用編 英語圏の考え方や情報をベースとした アイデアを提案	

事例① 文書作成（挨拶文）

Step1

Step2

プロンプト例

あなたは**東京都の職員**で、

立場

文章生成AIを職員に活用してもらうための
ガイドラインを作っている責任者
です。

立場

ガイドラインは以下の内容です。

（中略）

全職員向けに文章生成AIを活用して
もらうための**説明会を開きます**ので、

目的・背景

冒頭の挨拶文を作ってください。

形式

* 要約の質を高めるため、1 問目では
文字数は指定しない

形式

回答

皆さん、こんにちは。東京都の文章生成AI活用推進担当者の〇〇と申します。

本日は、文章生成AIを業務で活用してもらうための説明会にご参加いただき、ありがとうございます。

文章生成AIは、**都職員の業務効率や品質を向上させるだけでなく、創造性や多様性を高めることもできる画期的な技術**です。しかし、その一方で、誤った情報や不適切な表現を生成する可能性もあります。そのため、**生成AIを正しく理解し、適切に利用することが重要**です。

この説明会では、文章生成AIの基本的な仕組みや特徴、活用方法や注意点などについてお話しします。また、実際に生成AIを使って文章を作成するデモンストレーションも行います。

皆さんにとって有意義な時間となるように、わかりやすく丁寧に説明していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

事例① 文書作成（挨拶文）

Step1

Step2

プロンプト例

職員向け案内文に掲載するため、
200字で原稿を作ってください。

ブラッシュ
アップ

回答

文章生成AIとは、**人間の言語を模倣して文章を作る技術**です。この技術は、文書作成や情報収集などの業務に役立ちますが、**正確さや倫理性にも注意が必要です**。東京都では、文章生成AIの活用を推進するために、全職員向けの説明会を開催します。説明会では、文章生成AIの仕組みや使い方、注意点などをお伝えします。また、実際に文章生成AIを体験できるデモも行います。ぜひご参加ください。（185字）

事例② 文書作成（要約）

Step1

Step2

プロンプト例

スマート東京の内容について、
以下の内容を、簡潔に**要約**してください。

目的・背景

形式

スマート東京の推進により、すべての人とモノがIoTでつながり、都市全体がスマート化。防災、まちづくり、交通や教育など都民生活に広く最先端技術が浸透し、東京を世界で最も便利で生活満足度の高い都市へと進化。

(以下略)

回答

スマート東京は、IoTで都市全体をスマート化し、最先端技術を都民生活のあらゆる分野に導入するプロジェクトです。都市OSやデータプラットフォームを活用して、自然・気象、インフラ、くらし・経済などのデータを収集・分析し、サービスを提供します。また、電波の道TOKYO Data Highwayを基幹インフラとして構築し、いつでも誰でもどこでもつながる東京を実現します。さらに、ICTを使った教育や都庁のデジタル化、AI人材の育成などで、都民のQOLや幸福度を高めます。スマート東京は、デジタルテクノロジーで3つのシティを後押しし、誰もが快適な生活を送れる活力ある都市を目指します。

事例② 文書作成（要約）

Step1

Step2

プロンプト例

要約して頂いた内容を

**小学3年生でも理解できる
ように平易な言葉**でまとめて
ください。

ブラッシュ
アップ

回答

スマート東京というのは、**東京の街をもっと便利にするための計画**です。インターネットで色々なものがつながって、スマート東京は、東京を便利で楽しい都市にするための取り組みです。いろんなデータを集めて分析し、最新の技術を使って防災やまちづくり、交通や教育などのサービスを提供します。また、データが通る「電波の道」を作って、いつでもどこでもつながることができるようにします。子供たちの学びや都民の暮らしをより良くするためにも、スマートなサービスを提供します。さらに、都庁もデジタル化を進めて、スマート東京を支える人材を育てます。**東京を元気で楽しいスマートな都市にして、みんなの暮らしをより良くすることを目指しています。**

事例③ アイデア出し（企画提案）

Step1

Step2

プロンプト例

あなたは東京都のデジタルサービス局で
DXアワードの企画を担当しています。

立場

都庁内の各局から生み出される**創意工夫**
を凝らしたベストプラクティスを
共有し、優れた取組を称え、DX
への挑戦を後押ししたいと考えて
います。

目的・背景

DXアワードの内容を、
DXの業績で優れた部門に授与
する賞について、

目的・背景

アイデアを3つまとめてください。

形式

回答

DXアワードのアイデア

- DXリーダー賞
都庁内でDXの推進に積極的に取り組み、成果を上げた部門のリーダーに贈る賞です。DXのビジョンや戦略を明確に示し、部門内のメンバーや他局との連携を促進し、イノベーションを生み出したリーダーを表彰します。
- DXイノベーター賞
都庁内で新しい技術やサービスを開発・導入し、市民や職員の利便性や満足度を向上させた部門に贈る賞です。デジタル化によって業務効率や品質を改善し、社会的な課題やニーズに応えたイノベーターを表彰します。
- DXコラボレーター賞
都庁内や外部のパートナーと協力してDXの取組を実施し、相乗効果を生み出した部門に贈る賞です。オープンイノベーションや共創プロジェクトなど、様々な形でコラボレーションを行い、DXの普及や発展に貢献したコラボレーターを表彰します。

事例③ アイデア出し（企画提案）

Step1

Step2

プロンプト例

DXアワードの賞を再編し、
新しいアイデアを出して
ください。

ブラッシュ
アップ

回答

- DXアワードの賞を再編し、新しいアイデアを出してみました。
- DXトランスフォーマー賞：DXの過程において、自局の業務やサービスを大きく変革し、市民や社会に大きな価値を提供した部門に授与する賞です。既存の枠組みや制約にとらわれず、市民目線で問題を解決するために、デジタル技術や手法を積極的に活用することが評価されます。
 - DXエンパワー賞：DXの人材において、自局の職員や関係者のDX能力や意欲を高めた部門に授与する賞です。DXに必要なスキルや知識を習得し、教育や啓発活動を行うことで、DXの文化やマインドセットを醸成することが評価されます。
 - DXインテグレーター賞：DXの連携において、他局や外部機関とのデータやシステムの統合や共有を行った部門に授与する賞です。都庁内外のデジタル資源を有効に活用し、一体的なサービス提供や業務遂行を実現することが評価されます。

事例④ アイデア出し（企画提案）

応用編

ChatGPTが学習した情報量は日本語より英語がはるかに多いと言われています。そのため、英語で質問することにより、英語圏の多様な考え方や情報をベースにした、視点の異なるアイデアを生成することができます。

* 英語で直接プロンプトを入力する場合と同じ効果が得られます

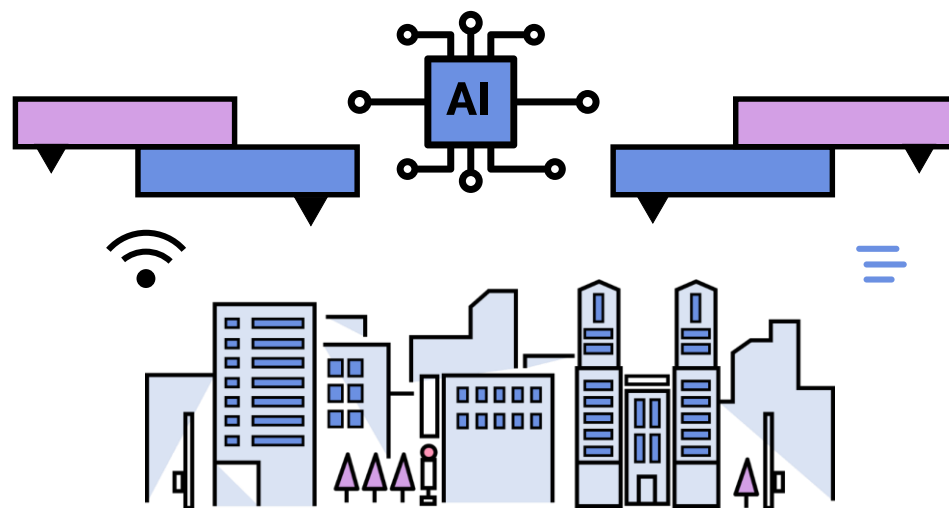


※ Microsoft Copilot(GPT-4の学習データ+Bing検索結果)で作成しました。

他にこんなことにも使える！という事例について、
デジタルサービス局まで共有をお願いします。

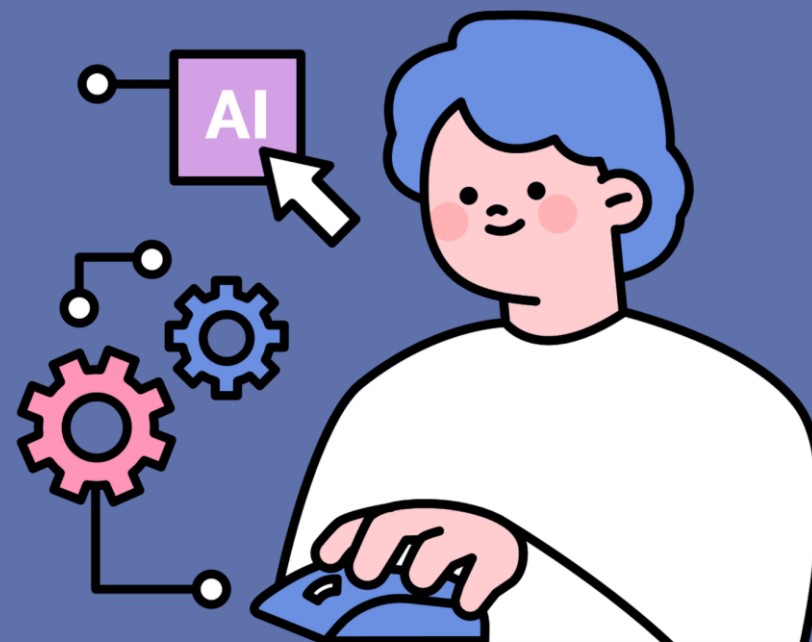
庁内で良い事例を共有し、生産性を向上させていきましょう！

こうした実績を蓄積し、都内区市町村や全国の自治体に、
ナレッジを共有していきます。



5章 今後の展望

5章では、今後の展望として、生成AIの最新の動向や、都が運用するサービス以外の生成AIの活用可能性について考えていきます。



1 発展を続ける生成AI

生成AIには、本ガイドラインで取り上げた文章生成AIだけでなく、**画像や動画、音声を生成するものなど、多様な種類**があります。

例えば、画像生成AIであれば、画像のテーマなどの条件を入力するだけで、様々な画像を得ることができ、これらを資料作成などに活用することも期待できます。

ただし、利用上のルールでも触れたように、**著作権侵害につながる恐れなどが指摘**されています。

これら以外にも技術の発展等により、新たな生成AIが誕生する可能性もあります。

生成AIの種類

文章生成



画像生成



動画生成

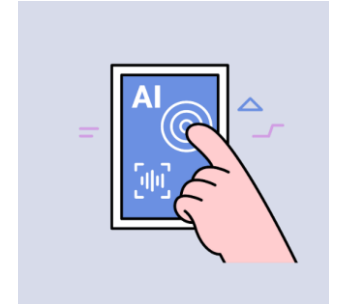


音声生成



2 生成AIをめぐる動向

生成AIを取り巻く状況は日々変化しています。世界の動向や国内での議論を注視しながら、都における生成AI活用可能性を引き続き検討・議論していく必要があります。



国内外の主な動向

- 内閣府が実務者級の「AI戦略チーム」（令和5年4月）ならびに有識者で構成する「AI戦略会議」（令和5年5月）を設置。AIに関するガイドラインを年内に一本化し、開発者から利用者までが利用しやすい内容に改定する方針（令和5年6月）
論点整理では「Chat（チャット）GPT」に代表される生成AIは、産業革命に並ぶ「歴史の画期」になる可能性があると言及し、『基本的な考え方』『リスクへの対応』『利用』『開発力』を議論（令和5年9月）
参考：[AI戦略](#)（内閣府）
- 文部科学省が『[初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン](#)』作成（令和5年7月）
- 内閣府 [AI時代の知的財産権検討会](#)（令和5年10月）
生成AIと知財をめぐる懸念・リスクへの懸念と生成AI技術による発明の保護の在り方について検討。
- 広島サミットにおける「広島AIプロセス」の設定（令和5年6月） 参考：[G7デジタル・技術大臣会合/G7広島サミット](#)（総務省）
- G7主要7カ国は生成AIを開発する企業が守るべきルールである「国際指針」と、具体的に守るべき取組を定めた「行動規範」に合意。（[外務省](#)）
- 広島AIプロセス包括的政策枠組みを公表（令和5年12月）（[内閣府](#)、[総務省](#)）
- 「AI事業者ガイドライン」令和6年3月公開（[総務省](#)、[経済産業省](#)）

生成AIを様々な場面で利活用するにあたっては、最新情報をご確認ください。

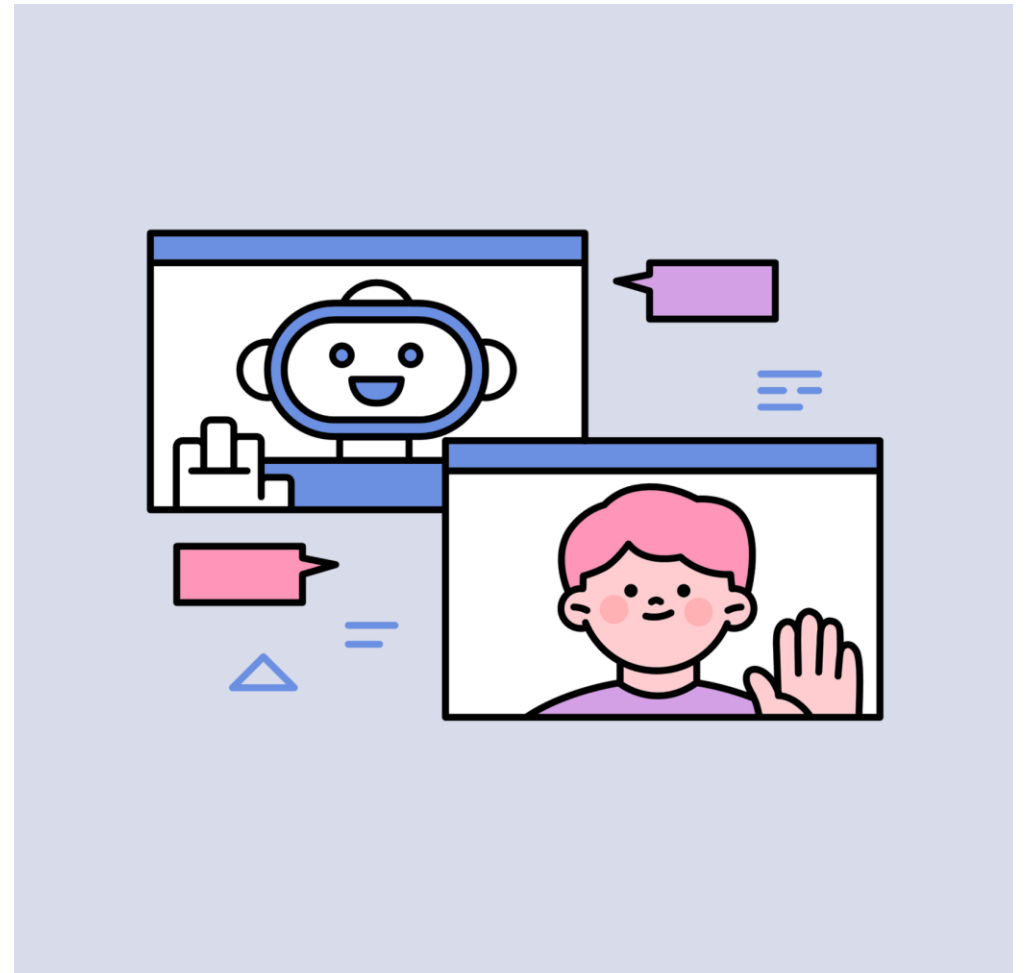
3 今後の都の取組

文章生成AI導入後も、継続的に職員の利用満足度や業務における効果等について検証し、利用環境の改善やさらなる活用につなげていきます。

また、好事例の横展開や情報収集・発信により、各局における積極的な活用を支援していきます。

プラグインサービス[※]や、文章生成以外の生成AIなど、生成AIのさらなる活用可能性についても検討していきます。

※ ソフトウェアに機能を追加する小さなプログラム、拡張機能



SPECIAL THANKS !

本ガイドライン（Version1.0）の作成にあたり、専門知識やご経験豊富な皆様にご意見を頂戴しました。

この場を借りて、御礼申し上げます。

ご協力いただいた有識者の方々（敬称略・五十音順）

岡田 淳

森・濱田松本法律事務所パートナー
政府「AI戦略会議」構成員

岡田 幸彦

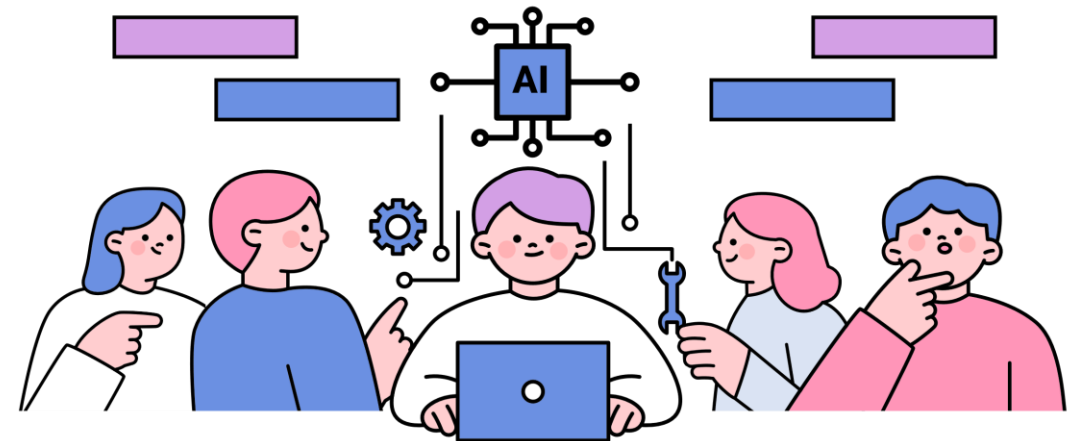
筑波大学システム情報系教授
同人工知能科学センター・サービス工学分野長

高木 祐介

株式会社自動処理代表取締役社長

丸山 宏

花王株式会社 エグゼクティブフェロー
株式会社Preferred Networks 取締役



付 録

職員アイデアソン

IDEATHON

職員アイデアソン

プロンプト事例を蓄積し、ガイドラインに反映するためにアイデアソンを開催しました。

デジタルサービス局職員（令和5年4・6月開催）

目的 業務に活用し、他局へ推薦できる事例の蓄積 等

→ 約400件のアイデアを創出



各局職員（令和5年8月開催）

目的 各局において実際に活用できる事例の蓄積

→ 約200件のアイデアを創出



職員アイデアソン | プロンプト事例

分類	プロンプト事例
文書作成	私は都道府県の税務担当者です。地域の小学5年生を対象に、税金の概要や納税の重要性を伝える租税教室の講師を務めます。この租税教室の冒頭に児童に対して1分程度の挨拶をするので、400字程度で挨拶文を作ってください。
	環境問題を子供たちにわかりやすく伝えるため、以下の文章を5歳の子どもでも容易に理解できる文章にひらがなを多めに言い換えてください。
	「業務のデジタル化に関する調査」について下記3点を委託し、実施、報告書提出を求めます。この委託を妥当な価格で行うために、委託仕様書に記載すべき事項を整理してください。①既存業務の内容を調査②対象業務のデジタル化・BPR後の業務フローを作成③システムの構築もしくは外部サービス調達の方向性の検討
	アンケート結果で意見の多かった内容をまとめてください。
アイデア出し	あなたは知事です。都民向けに説明するDX施策のキャッチフレーズを5つ挙げてください。
	スタートアップ向けのビジネスプランコンテストのイベントを検討しています。イベント名を5個考えてください。
	東京湾をテーマに、大学生向けの4択のクイズを3つ考えてください。
	今年対策を強化するべきサイバー攻撃を教えてください。事例などもあれば合わせて教えてください。
ローコード等の生成	以下の仕様でエクセルマクロを作成してください。 ①すべてのシートに対して、処理②各シートのA1セルを選択③各シートの表示行列を先頭にする。
	VBAの下記のコードの動作について、200字以内で要約して説明してください。

利用者アンケート

<調査概要>

対象者 : 東京都職員

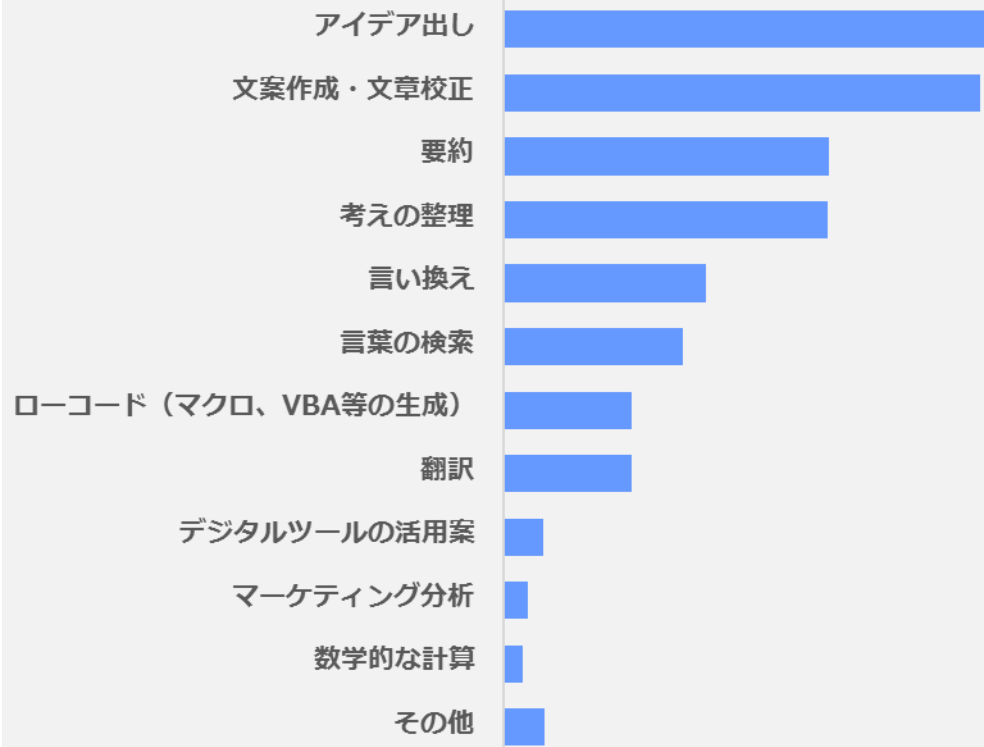
調査方法 : Webアンケート

調査期間 : R5/10/20 ~10/31

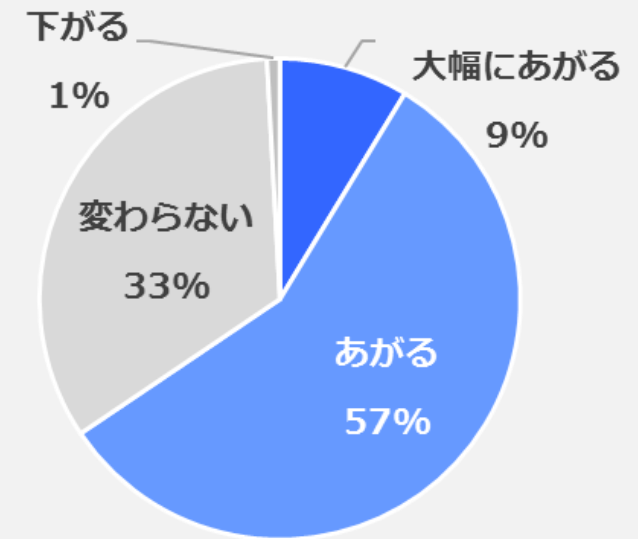
N数 : 4072

利用状況

文章生成AIをどのような用途で使用しましたか
(利用者を対象とした回答) (複数回答)



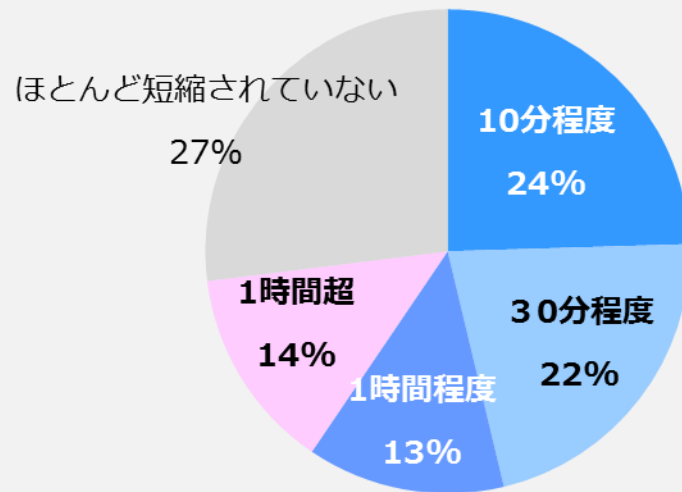
文章生成AIの利用により、
仕事の効率が向上しましたか
(利用していない・ほぼ利用していない職員を除く)



業務短縮時間

文章生成AIの利用により、一週間で合計何分程度、
業務時間が短縮されましたか？

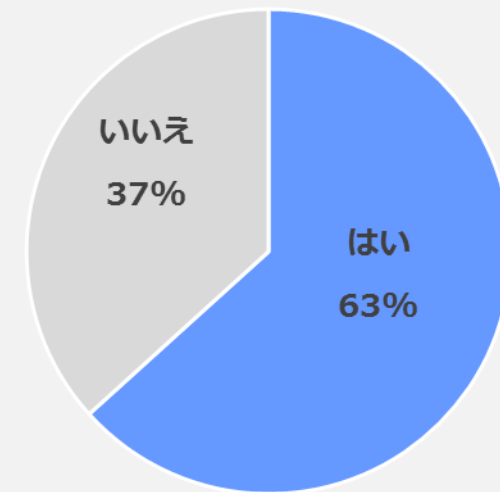
(利用していない・ほぼ利用していない職員を除く)



業務の質の向上

文章生成AIで業務の質の向上が図られたと
感じましたか？

(利用していない・ほぼ利用していない職員を除く)




4章で使用したプロンプトと回答の全文

PROMPTS & ANSWERS

掲載事例一覧

サンプル編は、プロンプトまたは回答を省略した事例のみを掲載			
サンプル編	事例 ①	利用に 不向きなもの	ローコードの作成
基本編	事例 ①	文書作成 (挨拶文)	Step 1 事業責任者として、説明会冒頭での 挨拶文 を作成  Step 2 挨拶文を 資料掲載用の原稿 に体裁を変更
	事例 ②	文書作成 (要約)	Step 1 HPから 局事業の内容を 要約  Step 2 子供にもわかるように 言い換え
	事例 ③	アイデア出し (企画提案)	Step 1 担当として、庁内イベントの 企画内容を提案  Step 2 追加提案
応用編	事例 ①	アイデア出し (企画提案)	応用編 英語圏の考え方や情報をベースとした アイデアを提案

ローコードの作成 *VBAで作成した場合- 1/2

プロンプト	Microsoft Excelでピボットテーブルを作成するコードを教えてください。
回答	<pre>vba ' ピボットテーブルを作成するためのデータ範囲を指定 Dim dataRange As Range Set dataRange = Worksheets("Sheet1").Range("A1:D10") ' ピボットテーブルを作成するための新しいワークシートを追加 Dim pivotSheet As Worksheet Set pivotSheet = Worksheets.Add ' ピボットテーブルを作成するためのキャッシュを作成 Dim pivotCache As PivotCache Set pivotCache = ActiveWorkbook.PivotCaches.Create(SourceType:=xlDatabase, SourceData:=dataRange) ' ピボットテーブルを作成し、A1セルに配置 Dim pivotTable As PivotTable Set pivotTable = pivotCache.CreatePivotTable(TableDestination:=pivotSheet.Range("A1")) ' ピボットテーブルに行フィールドとして「部門」を追加 pivotTable.PivotFields("部門").Orientation = xlRowField</pre> <p style="text-align: center;">次項へ</p> 

※ Microsoft Copilot(GPT-4の学習データ+Bing検索結果)で作成しました。

ローコードの作成 *VBAで作成した場合- 2/2

回答

```
' ピボットテーブルに値フィールドとして「売上」の合計を追加  
pivotTable.AddDataField pivotTable.PivotFields("売上"), "合計", xlSum  
  
' ピボットテーブルに列フィールドとして「月」を追加  
pivotTable.PivotFields("月").Orientation = xlColumnField  
  
' ピボットテーブルの書式設定  
pivotTable.ShowTableStyleRowStripes = True ' 行のストライプを表示  
  
pivotTable.TableStyle2 = "PivotStyleMedium9" ' スタイルを選択
```

文章作成（挨拶文） - 1/2

プロンプト

あなたは東京都の職員で、文章生成AIを職員に活用してもらうためのガイドラインを作っている責任者です。

ガイドラインは以下の内容です。

生成AIは、都職員の業務のあり方を大きく変革する可能性を秘めている一方、様々なリスクも指摘されています。このため、業務での活用にあたり期待する効果を得るためには、その特性をよく理解し、正しく利用することが重要。生成AIという新しい技術を正しく使いこなし、都政のQOS向上へとつなげていく。

全職員向けに文章生成AIを活用してもらうための説明会を開きますので、冒頭の挨拶文を作ってください。

回答

皆さん、こんにちは。東京都の文章生成AI活用推進担当者の〇〇と申します。

本日は、文章生成AIを業務で活用してもらうための説明会にご参加いただき、ありがとうございます。

文章生成AIは、都職員の業務効率や品質を向上させるだけでなく、創造性や多様性を高めることもできる画期的な技術です。しかし、その一方で、誤った情報や不適切な表現を生成する可能性もあります。そのため、生成AIを正しく理解し、適切に利用することが重要です。

この説明会では、文章生成AIの基本的な仕組みや特徴、活用方法や注意点などについてお話しします。また、実際に生成AIを使って文章を作成するデモンストレーションも行います。

皆さんにとって有意義な時間となるように、わかりやすく丁寧に説明していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

次項へ

文章作成（挨拶文） - 2/2

プロンプト	職員向け案内文に掲載するため、200字で原稿を作ってください。
回答	文章生成AIとは、人間の言語を模倣して文章を作る技術です。この技術は、文書作成や情報収集などの業務に役立ちますが、正確さや倫理性にも注意が必要です。東京都では、文章生成AIの活用を推進するために、全職員向けの説明会を開催します。説明会では、文章生成AIの仕組みや使い方、注意点などをお伝えします。また、実際に文章生成AIを体験できるデモも行います。ぜひご参加ください。（185字）

プロンプト

スマート東京の内容について、以下の内容を、簡潔に要約してください。

スマート東京の推進により、すべての人とモノがIoTでつながり、都市全体がスマート化。防災、まちづくり、交通や教育など都民生活に広く最先端技術が浸透し、東京を世界で最も便利で生活満足度の高い都市へと進化。

- ・「自然・気象」「インフラ」「くらし・経済」などの様々なデータをIoTで取得。都市OSを介し、データプラットフォームでデータの集約・解析等を行い、幅広い分野でサービスを展開する
- ・データが行き交う「電波の道」TOKYO Data Highwayを21世紀の基幹インフラとして、民間と都の最強タッグで構築し、いつでも、誰でも、どこでも「つながる東京」を実現する
- ・都民サービスでは、例えば、ICTを活用し、子供たちの一人ひとりの個性や成長に応じた学びに取り組むなど、都民のQOLや幸福度の向上につなげていく
- ・加えて、都庁自身のデジタルトランスフォーメーションを進めるとともに、高いAIスキルを有する人材を戦略的に育成することで、「スマート東京」の推進を強力に支えていく
- ・デジタルテクノロジーの力で3つのシティの実現を後押しし、東京を、誰もが快適な生活を送ることができる、活気に満ちた「スマート東京」へと進化させ、都民のQOLを向上させる

次項へ



文章作成（要約） - 2/2

回答	<p>スマート東京は、IoTで都市全体をスマート化し、最先端技術を都民生活のあらゆる分野に導入するプロジェクトです。都市OSやデータプラットフォームを活用して、自然・気象、インフラ、くらし・経済などのデータを収集・分析し、サービスを提供します。また、電波の道TOKYO Data Highwayを基幹インフラとして構築し、いつでも誰でもどこでもつながる東京を実現します。さらに、ICTを使った教育や都庁のデジタル化、AI人材の育成などで、都民のQOLや幸福度を高めます。スマート東京は、デジタルテクノロジーで3つのシティを後押しし、誰もが快適な生活を送れる活力ある都市を目指します。</p>
プロンプト	<p>要約して頂いた内容を小学3年生でも理解できるように平易な言葉でまとめてください。</p>
回答	<p>スマート東京というのは、東京の街をもっと便利にするための計画です。インターネットで色々なものがつながって、東京を便利で楽しい都市にするための取り組みです。いろんなデータを集めて分析し、最新の技術を使って防災やまちづくり、交通や教育などのサービスを提供します。また、データが通る「電波の道」を作って、いつでもどこでもつながることができるようにします。子供たちの学びや都民の暮らしをより良くするためにも、スマートなサービスを提供します。さらに、都庁もデジタル化を進めて、スマート東京を支える人材を育てます。東京を元気で楽しいスマートな都市にして、みんなの暮らしをより良くすることを目指しています。</p>

アイデア出し（企画提案） - 1/2

プロンプト	<p>あなたは東京都のデジタルサービス局でDXアワードの企画を担当しています。</p> <p>都庁内の各局から生み出される創意工夫を凝らしたベストプラクティスを共有し、優れた取組を称え、DXへの挑戦を後押ししたいと考えています。</p> <p>DXアワードの内容を、DXの業績で優れた部門に授与する賞について、アイデアを3つまとめてください。</p>
回答	<p>DXアワードのアイデア</p> <ol style="list-style-type: none">1. DXリーダー賞 都庁内でDXの推進に積極的に取り組み、成果を上げた部門のリーダーに贈る賞です。DXのビジョンや戦略を明確に示し、部門内のメンバーや他局との連携を促進し、イノベーションを生み出したリーダーを表彰します。2. DXイノベーター賞 都庁内で新しい技術やサービスを開発・導入し、市民や職員の利便性や満足度を向上させた部門に贈る賞です。デジタル化によって業務効率や品質を改善し、社会的な課題やニーズに応えたイノベーターを表彰します。3. DXコラボレーター賞 都庁内や外部のパートナーと協力してDXの取組を実施し、相乗効果を生み出した部門に贈る賞です。オープンイノベーションや共創プロジェクトなど、様々な形でコラボレーションを行い、DXの普及や発展に貢献したコラボレーターを表彰します。

アイデア出し（企画提案） - 2/2

プロンプト	DXアワードの賞を再編し、新しいアイデアを出してください。
回答	<p>DXアワードの賞を再編し、新しいアイデアを出してみました。</p> <ul style="list-style-type: none">- DXトランスフォーマー賞：DXの過程において、自局の業務やサービスを大きく変革し、市民や社会に大きな価値を提供した部門に授与する賞です。既存の枠組みや制約にとらわれず、市民目線で問題を解決するために、デジタル技術や手法を積極的に活用することが評価されます。- DXエンパワー賞：DXの人材において、自局の職員や関係者のDX能力や意欲を高めた部門に授与する賞です。DXに必要なスキルや知識を習得し、教育や啓発活動を行うことで、DXの文化やマインドセットを醸成することが評価されます。- DXインテグレーター賞：DXの連携において、他局や外部機関とのデータやシステムの統合や共有を行った部門に授与する賞です。都庁内外のデジタル資源を有効に活用し、一体的なサービス提供や業務遂行を実現することが評価されます。

アイデア出し（企画提案） - 1/6

プロンプト	"Please translate 'あなたはデジタル専門人材として世界各地で活躍しています。行政のデジタル化について世界中のベストプラクティスを調べ、東京都のデジタル化への挑戦を後押しする企画をまとめてください。' into English."
回答	"You are a digital expert who works around the world. Please research the best practices of digital transformation in public administration and compile a plan to support the challenge of digitalization in Tokyo."
プロンプト	"You are a digital expert who works around the world. Please research the best practices of digital transformation in public administration and compile a plan to support the challenge of digitalization in Tokyo. "
回答	As a digital expert who works around the world, I have researched the best practices of digital transformation in public administration and compiled a plan to support the challenge of digitalization in Tokyo. Here is a summary of my findings and recommendations:

次項へ

回答

- Digital transformation is the process of using technology to improve the effectiveness, efficiency and transparency of public administration, as well as to enhance citizen engagement and trust .
- Digital transformation requires a clear vision, a strategic plan, a collaborative culture, a data-driven approach, and a citizen-centric mindset .
- Tokyo faces several challenges in its digital transformation, such as aging population, urban congestion, environmental issues, disaster preparedness, and social inequality.
- Tokyo can leverage its strengths as a global city, a technology hub, and a cultural leader to overcome these challenges and become a smart city that delivers better public services and quality of life for its citizens.
- Some of the best practices of digital transformation in public administration that Tokyo can adopt are:
 - Developing a comprehensive digital strategy that aligns with the city's vision and goals, and involves all stakeholders from government, private sector, academia, civil society and citizens .
 - Investing in modern technology platforms that enable data collection, integration, analysis and sharing across different departments and agencies, as well as with external partners and citizens .
 - Implementing performance management systems that measure and monitor the progress and impact of digital initiatives, and provide feedback and learning opportunities for continuous improvement .

[次項へ](#)

回答

- Promoting open data policies and practices that increase the transparency and accountability of public administration, and foster innovation and collaboration among different actors .
- Engaging citizens in the design, delivery and evaluation of public services, and providing them with easy access to information and channels for feedback and participation .
By following these best practices, Tokyo can achieve its digital transformation goals and become a more effective, efficient, transparent and responsive public administration that serves the needs and expectations of its citizens.

プロンプト

日本語に訳してください。

As a digital expert who works around the world, I have researched the best practices of digital transformation in public administration and compiled a plan to support the challenge of digitalization in Tokyo. Here is a summary of my findings and recommendations:

- Digital transformation is the process of using technology to improve the effectiveness, efficiency and transparency of public administration, as well as to enhance citizen engagement and trust .
- Digital transformation requires a clear vision, a strategic plan, a collaborative culture, a data-driven approach, and a citizen-centric mindset .
- Tokyo faces several challenges in its digital transformation, such as aging population, urban congestion, environmental issues, disaster preparedness, and social inequality.
- Tokyo can leverage its strengths as a global city, a technology hub, and a cultural leader to overcome these challenges and become a smart city that delivers better public services and quality of life for its citizens.

次項へ

プロンプト

- Some of the best practices of digital transformation in public administration that Tokyo can adopt are:
- Developing a comprehensive digital strategy that aligns with the city's vision and goals, and involves all stakeholders from government, private sector, academia, civil society and citizens .
 - Investing in modern technology platforms that enable data collection, integration, analysis and sharing across different departments and agencies, as well as with external partners and citizens .
 - Implementing performance management systems that measure and monitor the progress and impact of digital initiatives, and provide feedback and learning opportunities for continuous improvement .
 - Promoting open data policies and practices that increase the transparency and accountability of public administration, and foster innovation and collaboration among different actors .
 - Engaging citizens in the design, delivery and evaluation of public services, and providing them with easy access to information and channels for feedback and participation .

By following these best practices, Tokyo can achieve its digital transformation goals and become a more effective, efficient, transparent and responsive public administration that serves the needs and expectations of its citizens..

次項へ

回答

世界中で活躍するデジタルエキスパートとして、公共行政のデジタルトランスフォーメーションのベストプラクティスを調査し、東京のデジタル化の課題をサポートするための計画をまとめました。以下は私の調査結果と提案の要約です。

デジタルトランスフォーメーションは、公共行政の効率性、効果、透明性を向上させ、市民の参加と信頼を高めるために技術を活用するプロセスです。

デジタルトランスフォーメーションには、明確なビジョン、戦略的計画、協力的な文化、データ駆動のアプローチ、市民中心のマインドセットが必要です。

東京は高齢化、都市の混雑、環境問題、災害対策、社会的不平等など、デジタルトランスフォーメーションに直面するいくつかの課題を抱えています。

東京は、グローバル都市、テクノロジーハブ、文化的リーダーとしての強みを活かし、これらの課題を乗り越え、市民により良い公共サービスと生活の質を提供するスマートシティになることができます。

東京が採用できる公共行政のデジタルトランスフォーメーションのベストプラクティスには以下があります：

市のビジョンと目標に合致する包括的なデジタル戦略の策定。政府、民間セクター、学界、市民など、すべての利害関係者を巻き込むこと。

異なる部門や機関、外部パートナー、市民とのデータ収集、統合、分析、共有を可能にするモダンな技術プラットフォームへの投資。

次項へ

回答

デジタルイニシアティブの進捗と影響を測定・監視し、フィードバックと学習の機会を提供するパフォーマンス管理システムの実施。

公共行政の透明性と説明責任を高め、異なるアクター間でのイノベーションと協力を促進するオープンデータの政策と実践の推進。

市民を公共サービスの設計、提供、評価に参加させ、情報への簡単なアクセスとフィードバックのチャネルを提供すること。

これらのベストプラクティスに従うことで、東京はデジタルトランスフォーメーションの目標を達成し、市民のニーズと期待に応える、より効果的で効率的、透明でレスポンスな公共行政になることができます。

アイデア出し（企画提案） *日本語で入力し、回答を生成した場合 - 1/2

応用編 / 事例①

プロンプト	<p>あなたはデジタル専門人材として世界各地で活躍しています。</p> <p>行政のデジタル化について世界中のベストプラクティスを調べ、東京都のデジタル化への挑戦を後押しする企画をまとめてください。</p>
回答	<p>あなたはデジタル専門人材として世界各地で活躍しています。</p> <p>行政のデジタル化について世界中のベストプラクティスを調べ、東京都のデジタル化への挑戦を後押しする企画をまとめてください。</p> <p>以下は、私が作成した企画の概要です。</p> <p>企画の目的：</p> <ul style="list-style-type: none">- 東京都の行政サービスをデジタル化し、市民の利便性と満足度を向上させる- 東京都のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進し、イノベーションと競争力を高める- 世界における先進的なデジタル行政の事例を参考にし、東京都の独自性と特色を活かす <p>企画の内容：</p> <ul style="list-style-type: none">- 行政サービスのオンライン化：市民がインターネットやスマートフォンから行政手続きや申請、問い合わせなどを簡単にできるようにする。例えば、住民票や戸籍謄本、税金や保険料の支払い、免許証やパスポートの更新など。- データ活用とオープンデータ化：市民や企業が必要な情報やデータを自由にアクセスできるようにする。例えば、交通や観光、防災や医療、教育や文化などの分野に関する統計や地図、予算や施策など。 <p style="text-align: center;">次項へ</p>

※ Microsoft Copilot(GPT-4の学習データ+Bing検索結果)で作成しました。

アイデア出し（企画提案） *日本語で入力し、回答を生成した場合 - 2/2

回答

- デジタル人材の育成と活用：行政職員や市民にデジタルスキルやリテラシーを向上させる教育や研修を提供する。また、デジタル専門家やスタートアップと協力して、新たなサービスやソリューションを開発する。
- デジタルガバナンスの強化：デジタル化に伴うセキュリティやプライバシー、倫理や法制度などの課題に対応するための方針や規則を策定する。また、市民や関係者との対話やフィードバックを通して、デジタル化の進捗や効果を評価する。

企画の効果：

- 行政サービスのオンライン化により、市民は時間や場所に関係なくサービスを利用できるようになり、手間やコストが削減される。また、行政側も業務効率や品質が向上し、負担が軽減される。
- データ活用とオープンデータ化により、市民や企業は必要な情報やデータを容易に入手できるようになり、意思決定やビジネスに役立てることができる。また、行政側もデータ分析や可視化により、政策立案や問題解決に有効な情報を得ることができる。
- デジタル人材の育成と活用により、行政職員や市民はデジタルスキルやリテラシーが高まり、デジタル社会に適応できるようになる。また、デジタル専門家やスタートアップとの協力により、新たなサービスやソリューションが生まれ出される。
- デジタルガバナンスの強化により、デジタル化に伴うリスクや課題に対処できる体制や仕組みが整備される。また、市民や関係者との対話やフィードバックにより、デジタル化の目的や方向性が共有され、信頼や支持が得られる。

以上が、私が作成した企画の概要です。ご意見やご感想をお聞かせください。

改定履歴

発行	発行日	改定内容
Version 1.0	令和5年8月23日	初版発行
Version 1.1	令和5年8月28日	P32～P34, P56～P58 : プロンプト例の修正
Version 1.2	令和5年9月14日	裏表紙 : 本ガイドラインの取扱いを追加
Version 2.0	令和6年4月 1日	都における利用環境の変更に伴い、全体を修正

*本ガイドラインは、東京都職員が使用することを前提に作成しております

文章生成AI利活用ガイドライン

Version 2.0

本ガイドラインはイラスト画像を除き、著作権法の範囲内で、文章の引用・転載等にご自由に利用いただけます。その際は発行元を明記していただくようお願いします。

なお、このガイドラインは、将来的な状況に応じて改訂される可能性がありますので、予めご了承ください。

発行：東京都デジタルサービス局